



日本建築学会

# 東北支部年報

第 29号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: [aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp](mailto:aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp)

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

## 巻頭言

### — 支部 60 周年事業を終えて —

東北支部長 吉野 博

昨年の5月から東北支部長を拝命しており、1年近くが経過いたしました。この一年間の活動を振り返るとともに、今後の課題に関して所信を述べたいと思います。

日本建築学会東北支部は1948年2月に発足し、昨年60周年を迎えました。これを記念して、昨年12月11日(木)には、記念シンポジウムと祝賀会が開催されました。記念シンポジウムでは日本建築学会大賞を受賞された和泉正哲先生(東北大学名誉教授、元支部長)に、「神髄の把握」と題する奥の深いご講演を頂き、深い感銘を受けました。その後のパネルディスカッションでは会長の齋藤公男先生(日本大学名誉教授)と中島正愛副会長(京都大学教授)も交えて、建築学会の支部活動のあり方について議論いたしました。その中では、研究委員会の各部会相互の連携、他支部との連携、関連学協会等との協力などを通して、更なる活性化を図る必要がある、或いは、支所活動として「親子の建築講座」は是非、継続していただきたい、といった意見を頂きました。市民を巻き込んだ学会活動は社会貢献の具体的な活動として重要であり、優先的に考えていきたいと思っております。支部活動のあり方に関しましては、今年の総会でも再び議論する予定です。記念行事としては、研究委員会の各部会の企画に基づいてシンポジウム、見学会など9つの行事が施されました。詳細は、後述されている通りです。お世話になった方々には、心より感謝申し上げます。

東北支部の活動としては、ご存知のように東北建築賞の顕彰、東北支部年報の発行、東北建築作品発表会、東北支部大会「みちのくの風」、建築文化週間事業、親子の建築講座などがあります。これらは支部活動の柱となっておりますが、今後とも工夫を凝らしていただき、長く続くように関係者のご協力をいただきたいと思います。また、研究委員会では9つの部会が活動していますが、先に述べましたように部会相互の連携、他の支部との連携などが今後の課題として挙げられます。

記念事業を終えて、支部60年のこれまでの重みを感じるとともに、一方では定例となっている様々な行事を基本として新たな活動を展開することによって魅力ある支部としなければならないと感じた次第です。

さて本年度は、建築学会の全国大会が東北学院大学泉キャンパスで、2009年8月26日から29日までの4日間、開催されます。昨年の広島大会では、建築デザインの発表会が新たに設けられ、参加者は9241人という規模の大きな大会となりました。今年は、建築デザイン発表の応募が増加するものと見込まれ、更に多くの参加者が想定されています。また、市民を対象とした催し物も企画されています。現在、支部常議員や大学関係者からなる大会実行委員会において万全の体制で準備を進めております。支部会員の皆様には様々な面でのご協力ご支援を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。(2009年3月執筆)

#### もくじ

○巻頭言- 支部60周年事業を終えて- . . . . .	1
○企画記事 . . . . .	2
○特別記念事業 . . . . .	2
○建築文化週間事業報告 . . . . .	5
○第29回 東北建築賞(作品賞) 選考報告 . . . . .	5
○第29回 東北建築賞(研究奨励賞) 選考報告 . . . . .	8

○第19回東北建築作品発表会報告 . . . . .	9
○第28回東北建築賞表彰式及び展示会報告 . . . . .	9
○「作品選集2009」東北支部選考経過報告 . . . . .	9
○2008年度設計競技東北支部審査報告 . . . . .	10
○2008年度東北支部研究報告会報告 . . . . .	10
○2008年度日本建築学会東北支部総会報告 . . . . .	10
○研究部会活動報告 . . . . .	11

○支所だより . . . . .	15
○常議員会から . . . . .	17
○支部役員名簿 . . . . .	18
○2008年度事業報告 . . . . .	19
○2009年度事業計画(案) . . . . .	22
○法人・賛助会員名簿 . . . . .	24
○2009年度東北大会のお知らせ . . . . .	25

## 「みちのくの風 2008 青森」開催報告

常議員 陳 沛 山

「みちのくの風 2008 青森」は2008年6月7日と8日に、青森県弘前市の弘前文化センターにおいて盛大に開催された。今年度の「みちのくの風」は、第71回東北支部研究報告会、招待講演、パネル展示会、第28回東北建築賞表彰式、そして初試みの見学会など多数の活動を行った。

まず、第71回東北支部研究報告会は、発表題数は139題、発表会参加者数は延べ200名を数えた。例年通り、発表論文は「日本建築学会東北支部研究報告集」第71号(二分冊)として刊行された。

6月7日に招待講演を行った。計画・環境部門では(財)木村産業研究所理事長木村文丸氏より木材と建築の関連事情及び建築家前川國男の作品を紹介し、構造・材料部門では東京理科大兼松学先生により「中性子利用技術の建築材料分野への応用研究現状」という題目で講演がなされた。それぞれ25名と40名以上の参加者が熱心に講演を聴講した。同日に第28回東北建築賞表彰式を行い、それぞれの受賞者の記念講演を行った。

そして、東北建築賞作品展、JIA青森作品展並びに東北支部法人会員技術報告を同時に行い、建築賞作品4点、作品奨励賞1点、JIA青森会員の作品など数十枚のパネルを展示した。大学デザイン教育研究の実践展は6月7日に行われ、同日の午後18時より「デザイン教育研究における産・官・民との連携と社会還元」の公開研究会を行った。

今年度の「みちのくの風」は始めて見学会を試みた。6月7日午後、約45名の参加者はバスで移動し、前川国男氏の処女作である木村産業研究所、誓願寺山門、平川市尾上町金屋地区農家蔵、黒石市こみせ・高橋家・鳴海酒造・消防屯所を熱心に参観した。協力案内者の今隆氏と月館敏栄先生、そして解説者の木村文丸氏、弘前市教育委員会文化財保護課、佐藤正彦氏、黒石市教育委員会に感謝致します。

6月8日には、日本建築学会会長斎藤公男先生より「空間と構造—私にとっての構造デザイン」という題名で基調講演をなされた。80名以上の参加者は熱心に聴講し、質疑も活発で盛況であった。その後、第3会議室にて会長懇談会を行い、日本建築学会の真木事務局長、支部役員が参加し、支部活動の報告や今後の展開について意見交換を行った。

最後に本年度の「みちのくの風」の開催に際してご尽力いただいた関係各位に謝意を表し、報告を締めくくる。



見学会の様子（誓願寺山門にて）

### 特別記念事業 日本建築学会東北支部60周年関連行事

## 60周年記念シンポジウム

常議員 佐藤 健

東北支部創立60周年記念事業として、東北支部主催の記念シンポジウムおよび記念パーティー、60周年略史発刊、東北支部研究委員会の企画による連続セミナーが開催された。概要を以下に示す。

### 1. 記念シンポジウムおよび記念パーティー

日時：平成20年12月11日(木)

会場：仙台市情報・産業プラザ多目的ホール

■記念シンポジウム 14:00～17:30

第1部 平成20年度日本建築学会大賞受賞記念講演会

講師：和泉正哲（東北大学名誉教授）

演題：「神髓の把握」

第2部 シンポジウム

テーマ：「支部活動の過去・現在・未来」

東北支部研究委員会の活動報告

パネルディスカッション

コーディネーター

吉野 博（東北支部長、東北大学教授）

パネリスト

斎藤公男（会長、日本大学名誉教授）

中島正愛（副会長、京都大学教授）

大村虔一（元支部長、宮城県教育委員会委員長）

渡邊浩文（東北支部環境工学部会長、東北工業大学教授）

松本純一郎（日本建築家協会東北支部長）

細田洋子（元東北支部企画運営委員）

和泉正哲（前掲）

■記念パーティー 18:00～20:00

## 2. 60周年略史

50周年略史発刊からこの10年の東北支部の活動記録を全46ページにとりまとめ、記念シンポジウムの開催日にあわせて、平成20年12月11日に発刊した。60周年略史担当委員は、倉田光春、吉野 博の両支部長のもと、常議員の市岡綾子、佐藤 健が担当した。

## 3. 連続セミナー

60周年記念関連事業として7研究部会が全9事業を企画し、連続セミナーとして開催した。



## 建築デザイン教育部会

「東北のデザイン教育研究におけるローカリズム / グローバリズム」

部会長 相羽 康郎

話題提供: 横山英子氏(横山建築設計事務所)

支部60周年関連行事として、建築とまちづくり(地方性)の観点から改めてデザイン教育をとらえ直す目的のミニシンポジウムを、平成20年11月1日仙台市東北工大一番町ロビーで実施した(参加者合計12名)。

仙台市を中心に幅広く活躍している横山英子さんに話題提供をお願いし講演頂いたあと、部会委員と集まった方々で自由に議論を行った。横山さんは御自身の経験から、建築家であるお父上に一般の方々が十分言いたいことを言えない現状から、両者の通訳的な仕事に活路を見出し、5年前から街角仕事人組合を立ち上げて、異なる専門の方々の知恵によって可能性を広げる活動を行っている。具体的に活動内容を説明され、街の美しさも市民の行動によること、公共施設などの設計後、もっと市民が使いこなせ、愛せるようになってよいこと、そこには設計のプロと利用者との乖離があり、そのこともあって美しい街へとつながっていないのではと指摘した。

その後、大学のデザイン教育内容について議論が行われた。街が学生を育てる観点、近年課題内容は街づくりに傾斜しているものの、学生が創造性を発揮し自己主張する結果の作品性と、街づくりが相反傾向となりがちである困難さなどが指摘された。作品を作るにしても自ら参加し観察する態度の重要性、それを教育プログラムで位置づけて、

使用する側、社会の側から創造性の方向を考えさせることの重要性が話し合われた。また卒業後に地域で学生が活躍できる場をもたらすデザイン制度の必要性などを確認した。

## 建築計画部会

「現場(フィールド)から考える。」

- 計画フィールドとしての東北と建築計画の次の展開-

部会長 石井 敏

本シンポジウムは、東北支部60周年を記念して、2008年11月23日13:00~16:00に行われた。司会は石井敏(東北工業大学)、副司会は太幡英亮(東北文化学園大学)で行われた。石井より「東北」を現場として、建築計画研究を行っている研究者の研究成果を基に、社会に向けた研究のアウトプットのあり方を探っていききたいとの趣旨説明が行われた。これに続き、基調講演として布野修司・建築計画委員長(滋賀県立大学)にご講演をいただいた。アジアの都市組織研究を行うに至った経緯や都市型住宅の研究事例を紹介されながら建築計画の研究と実践の融合を「現場(フィールド)」というキーワードに基づいてお話しいただいた。次に、東北で活躍されている若手研究者3名がパネリストを務めた。大沼正寛(東北文化学園大学)は、金ヶ崎や仙台、登米などのコミュニティに根ざした様々な活動の際に建築という領域が解決すべき課題の多さを指摘した。厳爽(宮城学院女子大)は、広島県福山市での在宅ケアが施設による公的なケアサービスだけではなく、血縁や地域縁などによる強弱のあるネットワークによるケアの必要性を詳細な事例を通して紹介した。坂口大洋(東北大学)は、仙台、会津、下北沢、韓国といった幅広いフィールドにおける小劇場の集積状況や仮設的な演劇舞台が創り出す行為や価値について述べた。布野委員長を交えた後半の討論では、布野が元々の建築計画自体が、都市のコンテキストを解明する糸口として様々な建築の機能を調査した経緯に触れ、いわゆる狭義の建築計画で行われていた施設研究を超え、新たな空間の型を提示するのが建築の仕事という意見を示された。



最後に、石井からは東北の建築計画の研究者が一同に集まる機会自体が稀であり、特に、大学で建築計画を学ぶ学生が直に話を聞ける貴重な場になったとのまとめでシンポジウムは閉会した。

(報告: 北野央 東北大学)

## 歴史意匠部会

### 「歴史的建築物の地震被害とその対応」

部会長 西野 敏信

2008年6月14日岩手・宮城内陸地震が発生し、歴史的建造物も大きな被害を受けた。「災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究」を研究テーマに掲げる歴史・意匠部会では被害調査にあたった。調査では、「歴史的建築総目録データベース」を活用、調査結果はデータベースに反映されるが、次の問題として、被害を受けた建造物に対する対応が浮上して来た。



そこで、部会では「歴史的建築物の地震被害とその対応」をテーマとしたシンポジウムを11月1日東北工業大学一番丁ロビーで開催した。歴史的建造物の保存には多くの人の協力が必要となる。岩手・宮

城内陸地震で被害を受けた建物の管理者である川股峰雄氏（金成町）、門傳仁氏（栗原市）、学会より被害調査にあたった永井康雄（東北大学）、関口重樹（東北歴史博物館）、伊藤敬一（木構造・元八戸工業大学）、白崎恵介（宮城県文化財課）をパネリストに迎え、コーディネーターを月館敏栄（八戸工業大学）が務めた。趣旨説明（部会長西野）、今回の地震の被害状況、被害を受けた建造物の現況報告に続き、修復に対する構造的見地、行政としての対応が報告された。自由討論に入り建設業者からの意見も開陳され、今後、市民、学会、行政、管理者の連携した活動が必要であることが確認された。出席者24名。

## 材料部会

### 「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方」

部会長 伊藤 憲雄

材料部会では「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方」をテーマに活動を行っており、これらに関する勉強会・講演会を支部60周年関連行事として開催した。

まず、8月22日に、「サステナビリティ確保に関する行政の取り組み—超長期住宅先導的モデル事業「200年住宅」を例として—」と題し、講師に有川智氏（独立行政法人建築研究所）をお招きして勉強会を行った。講義では我が国における「超長期住宅普及促進」の取組みについて、超長期住宅先導的モデル事業の実施を中心に解説頂き、住宅の超長期利用におけるポイント、構造物の長寿命化に関する技術基準などを紹介頂いた。その上で、成熟した技術分野

だからこそ柔軟な発想が必要という意見を述べられ、「100年後も壊されず、愛される住宅とは何か？」という命題を頂いた。

3月13日には「循環型社会に向けた建築生産のあり方」を主題とした講演会を開催した。最初に秋田県立大学板垣直行准教授に講演会の主旨説明をして頂き、その後東京大学大学院新領域創成科学研究科 清家剛准教授に「循環型社会のための資源の活用とリサイクル」をテーマに講演を頂いた。講演では清家先生が携わった解体工事調査結果や、EUにおける最新の再資源化システム等についてご報告頂いた。それを踏まえ、解体、リサイクルは重要だが、産業としてはまだまだ未整備であること、そしてリユース・リサイクル技術とそれらを動かす“エンジン”が重要であることを解説頂いた。

これらの勉強会・講演会の資料は材料部会ホームページ (<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/aijmtrl.html>) に掲載している。興味がある方はぜひアクセスして頂きたい。

（報告：幹事 板垣直行）

## 環境工学部会

### 第55回東北環境設備研究会「東北地方における非住宅建築物エネルギー消費量の10年間の変化」

部会長 渡邊 浩文

本研究会は、平成20年10月31日にフォレスト仙台にて開催された。1998年および2007年に実施された東北地方を対象とした非住宅建築物のエネルギー消費実態調査結果を紹介し、この10年間でエネルギー消費量の変化を踏まえたより効果的な省エネルギー対策について考える機会とすることを目的として開催された催事である。参加者は69名であった。まず2007年度より調査が開始されている建築環境・省エネルギー機構に設置された非住宅建築物環境関連データベース検討委員会の活動概要が東京海洋大学の亀谷茂樹氏よりなされ、全国を対象とした産官学連携による日本最大級のデータを有するデータベースが構築されつつあることが報告された。その後、エネルギー消費量の実態調査結果について建物用途別に、東北文化学園大学の須藤諭氏・井城依真氏から事務所建築・福祉施設・宿泊施設、東北工業大学の許雷氏から商業施設、東北芸術工科大学の三浦秀一氏から庁舎建築・病院建築、東北工業大学の渡辺浩文氏から学校建築について、それぞれ報告がなされた。エネルギー消費量の増減傾向は建物用途により異なり、エネルギー消費量が低減していたのは事務所建築、宿泊施設、庁舎建築であった。逆にエネルギー消費量が増加していたのは商業施設、病院建築、学校建築であった。気候条件や社会条件等の相違に関する精査や、使用用途別エネルギー消費量の分析など検討課題は少なくないが、今後の更なる研究とその成果の利活用が期待できる貴重なデータであることが指摘された。

## 環境工学部会

### 橋本典久先生・日本建築学会賞受賞記念講演会 「集合住宅における床衝撃音性能と騒音トラブル」

部会長 渡邊 浩文

本講演会は、平成 20 年 12 月 5 日にフォレスト仙台にて開催された。当部会委員である橋本典久先生（八戸工業大学工学部建築工学科・教授）が「拡散度法による床衝撃音遮断性能の予測に関する研究」にて、平成 20 年度日本建築学会賞（論文賞）を受賞されたことを記念に企画された講演会である。ただし建築関係者だけでなく一般市民や学生向けに、身近な集合住宅における騒音問題を取り上げていただいた。また当部会とともに、住まいと環境・東北フォーラムとの共催で開催された。参加者は 52 名であった。

講演は、学会賞の対象となった研究の端緒となった拡散度係数と振動応答との関係性に関する説明から床衝撃音予測計算法の概要を経て、橋本先生が最近取り組まれている騒音トラブルに関する研究に話題は展開し、「騒音」と「煩音」区別の重要性、さらには煩音問題の感情公害的側面に着目した社会的解決システムとして米国の NJC（Neighborhood Justice Center）を傍例とした我が国における「近隣トラブル解決センター」設立の運動など、所謂学術講演に留まらない多岐にわたる内容と、活動の紹介・ご提言であった。

当日は一般参加のみならず、地方自治体関連部局や報道機関からの参加が見受けられるなど、騒音トラブルの社会的関心の高さを伺わせた。

## 災害調査連絡会

### 「宮城県沖地震 30 周年市民講座」 「ここまで進んだ建物の総合耐震と都市の防災」

部会長 源榮 正人

本市民講座は、1978 年宮城県沖地震 30 周年にあたり、地震災害軽減のために日本建築学会がこれまでに果たしてきた役割と残されている課題について、広く一般市民を対象にわかりやすく解説し、総合討論を行った。参加者は 53 名であった。



まず、4 名のパネリストから基調報告があった。小林 淳氏（秋田県立大学教授）からは、「構造技術に望まれること」と題して、建築構造の立場から現行の耐震設計基準の考え方や、実務における耐

震設計の概要が紹介された。渡邊浩文氏（東北支部環境工学部会長、東北工業大学教授）からは、「建築設備・非構造部材の地震対策」と題して、建築設備の立場から最近の地震被害事例の紹介とあわせて現状と課題が報告された。最知正芳氏（東北支部前施工部会長、東北工業大学准教授）は、「ブロック塀問題その後」と題して、30 年前の宮城県沖地震において人的被害の要因となった塀類の倒壊被害を振り返り、いまだに地域に潜む危険性とその対策について報告した。月舘敏栄氏（八戸工業大学教授）は、「文化財・歴史的建築の防災体制」と題して、最近の地震被害事例をふまえながら、文化財や歴史的建造物の地震対策の課題について報告した。

最後に、源榮正人氏（東北支部災害調査連絡会委員長、東北大学教授）をコーディネータとするパネルディスカッションが行われ、地震災害科学に関する横断的な学際連携研究と災害調査体制のネットワークの拡大の必要性などが指摘された。

（報告：佐藤健 東北大学）

## ‘08 建築文化週間事業

今年度は建築文化週間事業として下記の 3 件の事業を行いました。詳細は（ ）内の頁を参照ください。

- 第 19 回東北建築作品発表会（9P）
- 第 5 5 回東北環境設備研究会「東北地方における非住宅建築物エネルギー消費量の 10 年間の変化」（4P）
- 宮城県沖地震 30 周年市民講座（5P）

## 第 29 回東北建築賞（作品賞）選考報告

選考委員長 針生 承一

### 1. 応募作品数

・小規模建築部門	: 8 点
・一般建築部門	: 22 点
計	: 30 点

### 2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議（2008 年 9 月 10 日、於：日本建築学会東北支部会議室）応募作品の数とその内訳を確認した上、東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞「作品賞」の選考基準などについて事前打ち合わせ会議を行った。
- (2) 東北建築作品発表会（2008 年 9 月 27 日、於：せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター）

第1次審査（同日、於：せんだいメディアテーク2階会議室）

第19回東北建築作品発表会において応募30作品の発表が行われた。質疑応答も入れて11分間という限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトと効果が紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査に入った。選考基準である、1) 企画力、2) 技術力、3) 地域への貢献・文化度を前提に、審査員各自意見を出し合い協議を重ねた後で、最終的に消去法による投票とした。つまり、落選案を投票する方式とした。小規模建築物部門については4票以下の5点とした。更に、一般建築物部門は3票以下の6点が先ず選ばれ、4、5票の7点については再び投票をして、4点を選んだ。審査員は更にこの結果を選考基準に立ち戻って検証し、協議を重ねた末、合意に達した。

この様な手順を経て、小規模建築物部門では5作品、一般建築物部門では10作品が選定された。また、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された15作品について現地審査の分担を決めた。

その後、現地において確認すべき点を検討し、作品の管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整を行うこととした。

なお、惜しくも1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

### (3) 現地審査

仙台市以外の9作品については11月6日から11月22日までの短期間中で選考委員の中からの4チームで現地審査が行われた。仙台市内の6作品（うち1作品は現地審査前に辞退）については1月31日に病休の吉田委員を除く、全審査員のもとで実施された。

### (4) 第2次審査（2009年1月31日、於：日本建築学会東北支部会議室）

第2次審査に当たり、小規模建築物部門及び一般建築物部門の作品賞の数を、応募作品数から勘案して、それぞれ1～2点及び4点程度を目安として審査を進める事に決められた。引き続き、各部門ごと、仙台市外の現地審査担当委員からその審査結果を報告され、9作品についての質疑、討論がなされた。

また、吉田委員を除く全員で現地審査を行った、5作品についても意見交換を行った。これらの協議の中で、再び選考基準の3本柱との整合性が問われた。最終的には、これからの討議をふまえた上で投票が行われ、その結果を踏まえて、更にさまざまな見地から多くの

意見が出された。その結果、小規模部門では作品賞2点、一般建築物部門については作品賞4点、特別賞としては小規模建築物部門から1点を選定した。

## 3. 選考結果

### 小規模建築物部門

#### 作品賞 小規模多機能ホーム「わが家」

【所在地】岩手県北上市和賀町煤孫10-14-1

【設計監理】Z設計／新澤 悦夫

【施主】医療法人社団 敬和会 理事長 金澤重俊

【施工】株式会社小原建設

#### 作品賞 玄関のない家

【所在地】福島県河沼郡湯川村

【設計監理】株式会社アトリエキミ

【施主】渡部 健司

【施工】株式会社君工務所

### 一般建築物部門

#### 作品賞 東北大学工学部『こもれびカフェ』

【所在地】宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6

【設計監理】東北大学キャンパス計画室・(有)ヴァルト  
プラッツ・(株)構造計画・(株)拓殖設備設計・  
東北大学施設部

【施主】東北大学

【施工】(株)丹秀工務店・高栄電気(株)・(株)北英工業所

#### 作品賞 能代市立浅内小学校

【所在地】秋田県能代市浅内字上ノ山13

【設計監理】設計チーム木（協）

【施主】能代市

【施工】中田・大森・サンワ建設工事JV 他

#### 作品賞 ヴィア定禅寺

【所在地】宮城県仙台市青葉区立町26-20

【設計監理】株式会社竹中工務店

【施主】株式会社 佐々木組

【施工】ヴィア定禅寺新築工事共同事業体  
(竹中工務店+橋本)

#### 作品賞 仙台市天文台

【所在地】宮城県仙台市青葉区錦ヶ丘9-29-32

【設計監理】NTT ファシリティーズ

【施主】株式会社 仙台天文サービス

【施工】戸田・橋本特定建設工事共同企業体

### 特別賞 小規模建築物部門

#### 0博士の家

【所在地】宮城県仙台市泉区

【設計監理】SOY source 建築設計事務所

【施主】0博士

【施工】菅原建設

## 4. 講評

### [作品賞]

#### 小規模多機能ホーム「わが家」

本作品は、2006年の介護保険法改正により制度化された小規模多機能型居宅介護施設で、認知症高齢者の在宅生活を支えるサービスを提供している。発注者である医療法人が、同敷地に老人保健施設や認知症高齢者グループホームを運営しているため、施設の役割分担に配慮されており、「わが家」の方向性が明確になっている。地域社会に極力近づこうとする姿勢が配置計画や平面計画に現れており、現地の気候に配慮した点など地域性を高く意識している。このような新しい制度の施設に、風土を熟知した建築家が積極的に地域性を意識した提案を行った姿勢が評価された。コンパクトで回遊性を確保した平面計画、明快な断面・構造計画、住宅スケールの空間のなかに織り込まれた様々な居場所、ランドマークとなる切妻屋根の外観、雪や風・日照に対応した屋根形状や軒・雪囲い壁など、よくデザインされている。高齢化が進む地域において老人保健施設が集約し多様なサービスを提供する効果が感じ取り、発注者や地域の利用者が、これらの施設に期待を寄せ、大切に使いこなしていこうという姿勢が感じられた。

#### 玄関のない家

リノベーションとして、設計に一定の制限がある中で、設計者は建築主に対し、思い切った提案をした。玄関を廃し、代わりに集落の通りに大きく開いた土間を設け、家の内部には、角度を変えた正方形の小部屋を配した。かなり大胆な切り口である。しかし、清冽な流れの小堀に面した土間は、小さなコミュニケーションを創出することが十分に期待できる。老齢のオーナー夫婦にとっては、家の中から通りを往来する人々の姿が見え、小堀で洗った野菜の前で会話が生まれるその空間は、閉鎖的で重々しい玄関よりも有為なものであろう。また、室内壁にできた鋭角部は、収納やニッチとして巧みに活かされ、内部空間の構成に多様な変化をもたらしている。広いリビング・ダイニングと相まって、土間から招き入れた近所の人達との茶飲み話が弾みそうな室内空間である。また、黒を基調とした外壁や、南東に設けられた広いウッドデッキ、庭の柿木との取り合いなど、外部にも随所に設計者の思いが感じられる。それらは、土間からの踏み込みの狭さや未整備の外構など、若干の指摘点を十分に補って余りある。一つのリノベーションのあり方として、その斬新さと緻密さは、十分に受賞に値するものであろう。

#### 東北大学工学部『こもれびカフェ』

本作品は昭和40年代に計画されたロードサイド型キャンパスから歩行者中心のものへと転換する計画の一

環として建てられたものである。食堂棟、コンビニエンスストア棟、展示棟からなり、それらは鉄骨スラブ構造により梁を省略した薄い屋根とサッシの方立てを兼ねた壁体によって構成されており、天井及び床に木材を使用することによって暖かみのあるスッキリとした無柱の空間を創り出している。各建物は建設前から存在していた樹齢50年以上になる7本の樺並木に包み込まれるように建てられており、樺の間を縫うような建物の曲面は周囲の自然環境（建物の背後には天然記念物の植物園が広がる）に溶け込んでいる。同時に、従来ともすれば閉鎖的になりがちなキャンパスを学外者・地域に開放することも意図しており、バス停から植物園へと誘うような建物配置となっている。「こもれび」を冠することからも、この計画における重要な主体の一つは樺であると理解されるので、枝葉や根の成長に合わせた整備など、今後とも十分な配慮を期待したい。

#### 能代市立浅内小学校

なだらかな丘を上ると切り妻屋根のシンプルな形態が見える。秋田杉厚板に天然塗料の外観は、旧校舎を知る人には懐かしく、太陽光線の具合で銀色に光ると宇宙船や方舟も連想させる。その造形と色彩は、校庭の草花や周囲の景観をじゃませず、既にとけ込んでいる。平面計画は、防犯に配慮した職員室の配置や地域連携施設など、基本的な要求に応え機能している。経年による陳腐化や機能不全を起こさず、長く確実に使われると推察できる。「地産地消の地場産材と木工技術の活用」というコンセプトは目新しくないが、コンセプト実現の徹底ぶり、総合的な達成度が高い。敷地高低差を活かし分棟した配置計画でRC部分のない純木造校舎を実現し、体育館屋根の木造架構や杉樹皮断熱材による高断熱化と木材多用による省CO<sub>2</sub>等の環境配慮の水準も高い。そして、地場材の安定供給を可能とする秋田杉供給ネットワーク構築と一般的な在来工法の採用で、RC造より低コストを達成した。これら成果は、今後の地域の木造建築推進や地場産業にも資すると期待でき、作品賞に値する。

#### ヴィア定禅寺

本作品は、樺並木が美しい仙台の定禅寺通り沿いに建設された下層階を店舗、上層階を共同住宅とする複合施設であり、街行く人のビューポイントとなり、アクティビティを誘発することを意図して計画されている。同社の作品でこれまでも採用されてきたフラットスラブ・鉄骨無垢柱・耐震壁からなる構造体が本作品でも使用されるとともに、ハイサッシュ・透明ガラスの手すりを効果的に組み合わせて、透明感のあるファサードと開放感溢れるリビングの実現に成功している。また、店舗脇に配置された鉄骨階段とグラフィックアートが施された「青の壁」もこのファサードに一役買っている。その他にも、EVホール側に室外機置き場を設ける、リビングにはあらかじめブランドを設置しておくなど、ファサード維持の

ための細やかな工夫もなされている。さらに、店舗と住宅の切り替え階において、当該階梁のデザインの処理、切り欠かれるフラットスラブ部分の支持や上層階無垢柱の支持を兼ねたと考えられる「青の壁」の配置など、各所によく練られたデザイン・構造的工夫が見られる。このように本作品は建築としての完成度が高く、作品賞に値する。

### 仙台市天文台

なだらかな山並みを基調とする周囲の美観と馴染もうとしたシンプルなボリュームの連続感は、低層でありながらも新しく生まれ変わった市民天文台にふさわしい存在感を十分に感じさせる建築である。また、開放感のあるトランジットホールを中心としたプラネタリウム、観測ゾーン、展示ゾーンの配置によって空間群を緩やかに融合化し、学者が求める特殊かつ高性能の機能を満たしつつも、一般利用者には使い勝手の良さや親しみ易さを抱かせている。こうした市民に使われる施設を徹底的に目指そうとする設計意図は、運営スタイルとも呼応しており、郊外という立地条件に反して予想をはるかに上回る利用実績をあげていることから読み取れる。本作品にはPFIが導入され30年という長期にわたって変化することを織り込んだ効率的な施設運営が求められている。これからも子供から大人を問わず幅広い市民にたいしてロマンや好奇心を掻き立たせる施設としてあり続けてほしいと期待する。

### [特別賞]

#### 0博士の家

黒と白に塗り分けられたボリュームを持つ平屋の住宅である0博士の家は、特異でもなく、かといって周辺環境に馴染みすぎているでもなく、ありきたりな住宅街の風景の中に建てられている、というよりはむしろ添えられているという印象を与える建築である。シンプルな構成原理を用いローコストを追究するという意味でも、建築の仕方から従来の住宅スタイルを採用することはなるべく避けながら、新しいモデルとしての空間論とコンポジションが積極的に検討されている。建築材料の扱い方には特別な思いがあるようであったが、住み手の立場でみるともう少し、住宅として親切的な材料の使い方があっても良かったのではないかと思う反面、住み手がこの住宅に魅了され、楽しく快適に住もうとしている気持ちが強く感じられるところが、今回の特別賞に選考された一つの重要な理由であることも特筆すべき点であろう。

### 第29回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・針生 承一 (株)針生承一建築研究所  
 委員 ・浅里 和茂 日本大学工学部建築学科  
 ・最知 正芳 東北工業大学建築学科  
 ・鈴木 孝男 宮城大学事業構想学部

・永井 康雄 東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻  
 ・中田 千彦 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科  
 ・西脇 智哉 山形大学地域教育文化学部生活総合学科  
 ・西川 竜二 秋田大学教育文化学部生活者科学講座  
 ・平岡 善浩 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科  
 ・吉田イサム 建築家吉田イサムとアーク・ハイ  
 ・西田 哲也 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

## 第29回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 月舘 敏栄

### 1. 選考経過

第29回東北建築賞研究奨励賞に材料・施工部会と構造部会から東北支部研究報告会における司会からの推薦各1件、環境工学会1件の計3件の応募があったので、2月4日(水)13:30から東北支部において選考会を開催した。

年度末を迎えて多忙な時期であるために、出席選考委員6名、委任状7名、欠席2名と委任状が出席者よりも多い異例の選考会となった。委任状が出席者よりも多いことを考慮して委任状の選考報告を出席者全員で確認したうえで予備選考と本選考を兼ねた選考を行った。

### 2. 選考結果

出席委員数が少なかったために予備選考を行わずに応募のあった3件を選考対象としたが、材料・施工部会と構造部会からの応募論文に問題点が指摘された。材料・施工部会の論文は、今年度から導入した東北支部研究報告会における司会者推薦であったが、前年度に応募で指摘された問題点が解決されていないことが改めて問題となった。委任状では評価が高かったが、出席委員に加えて委任状にも同じ指摘が1通あったために2/3以上の賛同を得られなかった。構造部会からの応募論文は、推薦文が選考委員会直前に提出されるなど応募規定上の問題点と現時点での研究成果が不明確であることが課題となっただけでなく、委任状でも同様の意見が多く、選考に至らなかった。環境工学会から応募された複数著者による論文は、研究の独自性や役割分担に課題はあるものの、学生を対象としたデータ収集と分析による教育効果を考慮して、出席者・委任状全員が「研究奨励賞」に選定した。

### 3. 今後の課題

今後の課題として、選考委員会の開催時期・再応募の条件・複数著者論文の扱い・司会者への応募規定の周知徹底などの課題が浮かび上がった。

### 第29回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

選考委員長	・月舘 敏栄	八戸工業大学建築工学科
委員	・石坂 公一	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻
	・伊藤 憲雄	宮城工業高等専門学校 建築学科
	・岡田 誠之	東北文化学園大学人間環境 デザイン学科
	・笠松 富二夫	宮城工業高等専門学校 建築学科
	・狩野 勝重	日本大学工学部建築学科
	・坂口 大洋	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻
	・高橋 恒夫	東北工業大学建築学科
	・出村 克宣	日本大学工学部建築学科
	・松井 壽則	日本大学工学部建築学科
	・源栄 正人	東北大学工学研究科災害制 御研究センター
	・持田 灯	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻
	・毛呂 眞	八戸工業大学建築工学科
	・山田 大彦	東北工業大学建築学科
	・西田 哲也	秋田県立大学システム科学 技術学部建築環境システム 学科

### 第19回東北建築作品発表会報告

常議員(社会文化) 西田 哲也

平成20年9月27日にせんだいメディアテーク7階スタジオシアターにおいて、第19回東北建築作品発表会が開催された。今回は小規模建築物部門8作品、一般建築部門22作品の計30作品の発表が行われた。昨年度と比べると小規模部門の減少が3作品、一般部門の増加が9作品となり、総数で6作品増加した。発表会は支部長挨拶、針生選考委員長による発表にあたっての注意の後、1作品につき8分の持ち時間で設計者から作品のコンセプトやアピールポイント、地域との関わりなどについてのプレゼンテーションがあり、その後、3分という短い質疑応答の時間ではあったが、活発な意見交換がなされた。このように内容的には非常に充実した発表会ではあったものの、参加人数に関しては102人と若干少ない状況であった。今後は広報のあり方を見直し、より多くの方々にご参加いただけるよう努める必要がある。

本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、

(社)建築士事務所協会(東北各県)、(社)建築士会(東北各県)、(社)東北建設業協会連合会のご後援をいただいていることを報告に加えさせていただきたい。

### 第28回東北建築賞表彰式及び

### 展示会報告

常議員(社会文化) 長谷川 兼一

第28回東北建築賞表彰式は「みちのくの風2008 青森」の初日、6月7日に弘前文化会館にて行われた。東北建築賞を受賞した作品は作品賞4点、作品奨励賞1点、研究奨励賞1点の合計6点である。表彰式は作品賞、作品奨励賞について相羽審査委員長、研究奨励賞について源栄審査委員長より選考経過報告と講評が行われた。続けて各受賞者各者には倉田支部長から賞状、賞杯が贈られた。受賞作品についてはスライドにより紹介が行われた。また、受賞作品のパネル展示会は6月7日、8日の2日間、展示室にて行われた。その後、東北建築作品展として東北6県の支所などで巡回展示された。本表彰式、講演会、パネル展示会は、ご講演の各位、委員長はじめ選考委員、青森支所及び支部の関係者・スタッフ、受賞者並びに作品・論文応募者の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

### 「作品選集2009」東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 千葉 政継

第1次東北支部選考会は、平成20年7月4日に支部会議室にて開催された(出席委員:千葉政継, 崎山俊雄, 時野谷茂, 本江正茂, 3名欠席)。

なお本年度は、全委員の意見の反映を目標とし、日程上第1次選考会を欠席することになった委員も開催日以前に1人6作品を選考しておくことと取り決めたことから、事前に事務局で保管した欠席委員の分を含め、全委員の選考をもとに協議を行った。応募作品は9作品で昨年と同数だった。選考の集計後の十分な協議の結果、現地審査の対象として以下の6作品を選定した。

日本バプティスト仙台基督教会  
東北工業大学八木山キャンパス1号館  
菅野美術館  
NHK秋田放送会館  
いわき明星大学 学習センター  
山形県金山町きごころ橋

6作品中3作品が仙台近郊に集中し、他は秋田、山形、福島に各1作品と分散したが、各作品の主担当を2名とした上で、出来るだけ多くの委員が見ることが出来ることと

アクセスを考えて分担を決め、現地審査に当たった。

第2次東北支部選考会は、平成20年8月8日に支部会議室にて開催された（出席委員：千葉政継、崎山俊雄、月館敏栄、時野谷茂、本江正茂、若松信行、1名欠席）。

第2次選考では、担当委員からの現地審査報告がおこなわれた後、6作品を再度選考基準と照らし合わせた上で十分な意見交換を行った。その結果、オリジナリティがあり完成度の高い小規模作品と、単体として一定水準を満たし他施設や周辺環境との関係上工夫のある作品の、2作品をAランク、増築工事として評価できる作品をBランク、細部の扱いについて議論があるが、新たな造形・工法にチャレンジしている作品をSランクと、合計4作品を支部推薦作品として選定した。

Aランク：菅野美術館

東北工業大学八木山キャンパス1号館

Bランク：いわき明星大学 学習センター

Sランク：日本バプティスト仙台基督教会

なお作品選集申し合わせ事項においてSランクは、「視座を特定すれば高い評価が得られるもの」とされているが、本部選集委員会においては、一般的な建築設計ではないもので、Aランク同等の作品に与えられるものと解釈されていることを付け加えておきたい。また、本年度から他支部と同様に設計者が立ち会う現地審査を行ったが、設計者の説明を受けることで、作品の理解が深まるメリットは大きいと感じられたことを報告しておきたい。

## 2008年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

審査委員長 市岡 綾子

今年のテーマは「記憶の器」である。東北支部には7作品の応募が集まり、平成20年7月15日、日本建築学会東北支部会議室において選考会が行われた。出席者は、市岡綾子（日本大）、坂口大洋（東北大）、櫻井一弥（東北大）、相模誓雄（宮城大）の4名の選考委員である（1名欠席）。まずは委員の互選により、審査委員長と議事録作成者（相模委員）が選ばれた。続いて、出席者4名がそれぞれ3点の作品を推薦する形で選考を実施した。その結果、棚田の段差を器に活用し田園における多様な居場所を提案した支部番号1「feel nature, feel future～原風景が繋ぐもの～」、仙台駅前であり時空が止まったような中庭に着目した支部番号6「三色の器」、以上2点の作品が3票以上の得票を得た。引き続き出席者4名が討議を行い、幻想的なプレゼンテーションによる魅力的な世界観を評価し、支部番号2「二つの世界をつなぐ場所」を支部入選作品に加え、計3点を全国審査に選出した。

今回は応募作品が少なく残念であった。東北地方に眠っている若い才能を開花させるチャンスでもあるため、積極的に学生へ働きかける必要性を感じた次第である。

## 2008年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育）鈴木 博司

2008年度の東北支部研究報告会は「みちのくの風2008 青森」として、2008年6月7日（土）・8日（日）の両日、弘前文化会館を会場に開催された。発表題数は139題で、昨年度の発表題数を20題上回る応募数であった。内訳は、環境42題、計画39題、材料施工13題、構造45題である。発表方式は例年通り、発表7分、質疑応答3分の計10分で、昨年より1会場多い4会場での発表がなされた。これらの発表論文は、「日本建築学会東北支部研究報告集71号（計画系・構造系の2分冊）」として収録・刊行された。

研究報告会にあわせて、初日の午前には、計画・環境部門での木村文丸氏（財）木村産業研究所 理事長）による招待講演「弘前と前川國男の建築—木村産業研究所を中心に—」、構造・材料施工部門での兼松学氏（東京理科大学 講師）による招待講演「中性子利用技術の建築材料分野への応用研究の現状」が実施された。2日目の午前には、斉藤公男日本建築学会会長をお迎えし、会長記念講演「空間と構造—私にとっての構造デザイン」が行われた。いずれの企画も多く参加者を集め盛況のうちに無事終了することができた。

青森県の関係各位をはじめ、研究報告会の準備と運営にあたられた方々、また発表・参加された各位に深く感謝申し上げます。

## 2008年度日本建築学会 東北支部総会報告

常議員（総務企画）佐藤 健

日時：2008年5月10日（土） 13:30より

場所：情報産業プラザセミナーホール(1)A、B

出席者：倉田光春支部長以下56名（委任状含む）

資料No.1：日本建築学会東北支部年報28号

資料No.2：2007年度日本建築学会東北支部財産目録

2007年度日本建築学会東北支部収支決算書  
会計監査報告書

2008年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）

大沼正昭常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

### 1. 出席者数及び委任状の確認

出席者29名（総会では出席者30名であったが、後に1名が非会員と判明した）、委任状27通、合計56名の確認があり、東北支部会員1,198名の1/30（39名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

### 2. 支部長挨拶

倉田光春支部長による挨拶があった。

### 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名者として、松井壽則氏及び渡邊浩文氏が選出された。

### 4. 議事

東北支部規程により、倉田光春支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

#### (1) 2007年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2007年度事業

佐藤健常議員より、資料No.1の支部年報16及び17ページの「2007年度事業報告」にもとづき、2007年度事業内容が報告された。

##### 2) 2007年度収支決算

関口美恵子常議員より、資料No.2の「2007年度日本建築学会東北支部財産目録」及び「2007年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき、2007年度収支決算が報告された。

##### 3) 会計監査結果

横山直樹支部監事より、資料No.2の会計監査報告書の通り、2007年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

2007年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

#### (2) 2008年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2008年度事業計画(案)

佐藤健常議員より、資料No.1の支部年報18及び19ページの「2008年度事業計画(案)」にもとづき、2008年度事業計画が説明された。

##### 2) 2008年度収支予算(案)

小澤成昭常議員より、資料No.2の「2008年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)」が説明された。

2008年度事業計画(案)及び収支予算(案)について審議した結果、特別な問題指摘もなく、承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2008年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以上

(報告：土方吉雄)

が発生し、7月24日には岩手北部地震があり、東北支部災害調査連絡会の要請により歴史・意匠部会より永井康雄(東北大学)、月館敏栄(八戸工業大学)、崎山俊雄(秋田県立大学)、角哲(秋田高専)の部会員が歴史的建造物の被害調査にあたった。

調査の結果は報告会などと共に学会東北支部ホームページで公開されている。今回の被害調査では、調査対象建造物の選定にあたって本委員会の歴史的建築リスト整備活用小委員会が運営している「歴史的建築総目録データベース」を活用したが、調査結果はデータベースに反映されることになる。今後データベースの充実と活用の幅が広がることが期待されるが、次の問題として、被害を受けた歴史的建造物に対する修復・保存等の被害対策が浮かんで来る。データベースに入力されている建物の内、文化財に指定・登録されている建造物は約14%である。これらの建造物は行政より何らかの対策・支援が受けられるが、残りの86%の建物は未指定・未登録であるため公的な支援を受けることが出来ない。そのため、未だに修復のめどが立たず放置されたままの建物も見られる。歴史的環境を後世に残して行くためには歴史的建造物の存在を把握し、市民と行政と学会が連携し、恒常的な活動を継続してゆく事が重要である。これらの事を踏まえて、11月1日には日本建築学会東北支部60周年記念行事の一環として部会主催のシンポジウム「歴史的建造物の地震被害とその対応」を開催した。

## 建築計画部会

部会長 石井 敏

今年度の計画部会の活動としては、支部60周年記念行事の一環として行ったシンポジウムを行った。東北という地域を意識しながらも、内に閉じない議論にするために、今回は布野修司建築計画委員長をお招きしてシンポジウムを開催することが出来た。

当日の詳細は別途報告するが、以下はシンポジウム開催の主旨文である。

『ダウンサイジングの社会構造変化の中で沈滞化する都市部。一方で高齢化過疎化が進行する農漁村部。その両方を抱えながら、様々な歴史的文化的な多様な顔を持つ「東北」。他方公共の住宅供給や公共建築の計画設計のフェーズを一つの回路として展開されてきた建築計画研究は、社会に向けた研究のアウトプットの回路そのものをどこに持つべきかが問われている。』

支部の60周年を記念する本シンポジウムは、都市組織と建築のあり方を問い続けている布野修司先生(建築計画委員長)をお招きして開催する。現場(フィールド)を大切にしながら研究を展開するフロントランナーの方々の話題提供をもとに、建築計画の現場から次世代の建築計画、その中で現場(フィールド)が持つ意味、さらには「東北」という土地性など、「現場(フィールド)」を一つの切り口として議論の場を創りだすことを目指す。』

## 研究部会活動報告

### 歴史・意匠部会

部会長 西野 敏信

今年度の研究テーマは昨年を引き続き「災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究」である。宮城県沖地震が心配されるなか、6月14日岩手・宮城内陸地震

ゲストの布野修司委員長の他、東北地方で活躍する若手パネリスト3名（坂口大洋・東北大、巖爽・宮城学院女子大、大沼正寛・東北文化学園大）からの話題提供、布野委員長を交えてディスカッション（司会：石井敏・東北工業大学、副司会：太幡英亮・東北文化学園大）を3時間の中で行った。

建築計画研究における、フィールドの意味と今後の研究の展開・可能性について議論が行われ、43名の参加者のもと盛況にシンポジウムを実施することができた。

来年度は大会開催もあるが、部会としてのイベントも積極的に企画し、部会メンバーが集える場を作り上げることを目指して行く方針である。

## 地方計画部会

部会長 増田 聡

今年度は防災まちづくりを部会活動のメインテーマとした研究活動と一般公開の市民フォーラムの企画運営を行った。

研究活動としては、昨年度の本部研究補助費で取り組んだ「Web-GIS等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化」に関する研究テーマを継承し、研究対象を仙台市から石巻市、大崎市、白石市へ拡大した上で、町内会アンケートによるコミュニティ防災力の都市間格差等について検討を行った。想定宮城県沖地震が発生した場合の場所によるリスクの都市間格差が大きい一方で、町内会や自主防災組織といった地域コミュニティの組織としての地震への備えはリスクに調和せず一様に高くない現状を確認した。宮城県沖地震の再来が迫る中、リスク調和型のコミュニティ防災力の高度化に向けて、どのような社会貢献が求められているのか議論を深めていきたい。



ワンポイント防災セミナー会場

また、昨年度の第3回に引き続き、「第4回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム：想定宮城県沖地震に対する住民と企業の地域連携(2009年3月8日、フォレスト仙台2階フォレストホール、宮城県沖地震対策研究協議会主催、地方計画部会共催)」を開催し、関係学協会や諸団体との連携協力に基づいて、ワンポイント防災セミナー、救護の達人コンテンツ、地域防災活動のパネル・ポスター展示を行い、防災まちづくりのための社会貢献活動を実施した。

また、昨年度の第3回に引き続き、「第4回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム：想定宮城県沖地震に対する住民と企業の地域連携(2009年3月8日、フォレスト仙台2階フォレストホール、

## 構造部会

部会長 植松 康

構造部会ではこれまで各年度の部会長、幹事がそれぞれその時宜に応じたテーマを設定し、それに関する先駆的な研究や技術開発を行っている研究者、技術者を招いた講演会の開催や討論を行い、東北地方における建築構造技術の発展と普及に貢献してきた。

本年度は、近年のコンピュータの飛躍的な性能向上や、数値解析技術の進展を背景にして、俄にその実用化が現実味を帯びてきた最適設計をテーマに据えることとした。

構造最適化は、大きく形状最適化と最適設計（剛性最適化）に分類される。前者に関しては、コンピュータを利用して奇抜な構造形態を創生することが試みられ、近年特に注目を集めている。本年度の構造部会では、より身近な構造設計に役立つと期待される後者の最適設計に焦点を当てることとし、この分野の先駆的な研究と具体的な最適設計ツールの開発を行っている研究者を招いて講演会を開催した。講演会は2回行いそれぞれのテーマ及び講師は、第一回：「構造設計の実務に最適設計手法は受け入れられるか？」（講師：東北大学准教授 五十子 幸樹）、第二回：「構造設計の論理化に向けて一意匠と構造の融合の試み」（講師：京都大学教授 上谷 宏二）とした。

講演会には、東北支部における産官学の研究者、技術者が出席し活発な討論がなされた。

また、本年度は構造部会主催の講演会以外に、東北大学大学院工学研究科主催のフォーラム(CASTフォーラム)を後援した。CASTフォーラムでは、「建築ラッシュ中の中国における建築構造及び耐震技術」と題し、中国・同済大学の教授4名をお招きして講演・討論を行った。講演者の先生方は、大学で教鞭をとる傍ら、それぞれに建築構造設計の実務にも関わっておられ、講演内容は、学術的にも実務的にも非常に内容が濃く興味深いものであった。

## 環境工学部会

部会長 渡邊 浩文

「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」をテーマに様々な活動を行った。具体的にはこれまでと同様に、部会開催時に関連する研究者による勉強会の開催、研究会・見学会等の開催である。研究会・見学会については、その内容により空気調和・衛生工学会東北支部、電気設備学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部などの関連学協会と共催という形式をとっている。予算上の制約が厳しい昨今、非常に有効な手法であると自負している。また建築士会東北支部とは相互に情報流通することとしている。

今年度の活動を以下に列挙する。

1. 部会および勉強会の開催

- 1) 5/26 第1回部会,
- 2) 9/1 第2回部会および勉強会「田原靖彦委員:私と音響学」,
- 3) 12/5 第3回部会,
- 4) 3/27 第4回部会および勉強会「橋本康弘委員:演題未定(本原稿執筆時点)」

## 2. 研究会等の開催

- 1) 6/2 シンポジウム「仙台・みやぎクールビズ宣言」
- 2) 10/10 シンポジウム「女性のためのトイレ」
- 3) 10/31 第55回東北環境設備研究会「非住宅建築物エネルギー消費量の10年間の変化」
- 4) 11/17 講演会「山田哲司先生:風洞スケールから地形スケールの気流・拡散シミュレーションを対象にした大気モデルの開発と応用」
- 5) 12/5 講演会「集合住宅における騒音トラブル」
- 6) 1/18, 25 「杜の都まちづくりワークショップ」
- 7) /2 第56回東北環境設備研究会「地域特性に配慮した建築物環境性能評価」

## 3. 見学会の開催

- 1) 5/28 「仙台市天文台」
- 2) 10/16 「杜の都信用金庫」

## 材料部会

部会長 **伊藤 憲雄**

本部会では、2008年度も前年度から継続し、「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」をテーマとして活動に取り組んだ。特に本年度はサステナビリティ確保に関する取り組みについて広く情報を収集し、教育ツールの拡充を図るにあたり、外部の有識者を交えた勉強会を行っていくこととした。

第1回部会は5月13日に開催され、これらの活動方針を確認すると共に、第1回目の勉強会においてスケルトン・インフィル型をはじめとする長期耐用住宅に焦点をあてることとし、講師として国土交通省・超長期住宅先導的モデル事業の評価について担当されている独立行政法人建築研究所の有川智氏に依頼することとした。

第2回部会はこの勉強会を兼ねて8月22日に開催された。部会では、今年度開催する勉強会・講演会を支部60周年の記念事業に位置づけることが了承され、収集した情報を共有すると共に活動の発信をするためのホームページ\*を開設することが了承された。

続く勉強会では、「サステナビリティ確保に関する行政の取り組みー超長期住宅先導的モデル事業「200年住宅」を例としてー」と題し、有川氏より長期耐用住宅に関わる最新の取り組みや今回の事業の目指す方針などについて解説頂いた。

第3回部会は3月13日に講演会を兼ねて開催された。講師に東京大学大学院新領域創成科学研究科 清家剛准教授をお招きし、「循環型社会のための資源の活用とリサイク

ル」をテーマに、解体工事調査やEUにおけるリサイクルの現状など、幅広い内容について講演を頂いた。

本部会では、これらの勉強会・講演会で得た情報を整理し、来年もこのテーマを継続する予定である。

\*<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/aijmtr1.html>

## 施工部会

部会長 **笠松 富二夫**

本部会の平成20年度の活動について報告すると、定例の部会を5月、7月、10月、12月、2月(平成21年)の5回実施し、10月の部会は建築学会東北支部60周年記念行事として見学会も合わせて開催した。

本部会のメインの活動としては、数年前から「環境効率を考慮した建築物のリニューアルの実態と改修技術の調査研究」のテーマで取り組み、部位ごとの工事例収集を今年度も継続している。これまで49例を収集し、定例会ごとに担当委員からの事例報告とそれに対する意見交換を重ね協議を進めている。平成21年度を上記研究のまとめの1年としており、今後部会をあげて進めていく予定である。

支部60周年を記念した事業は10月8日に開催し、「仙台本町プロジェクト新築工事」の現場見学会として実施した。同新築工事は仙台市中心部本町に建設が進められているものであり、地下1階・地上18階・塔屋2階の建設工事である。竣工後はホテル・事務所・ショールームとして使用され、ホテルとオフィスが複合する仙台市中心部のシンボリック拠点として機能することが大いに期待されているプロジェクトである。本工事の特徴としては①仮設ベース、梁目違いの独特な管理施工法、②CFT柱への打設落とし込み充填工法、③地下鉄からの建物への振動対策、④高層建物に関わる電波障害の検討設計などである。平成21年7月には完成の予定であり、100万都市にふさわしいすばらしい建物として多くの市民に親しまれるものと思われる。

本部会の恒例の事業としての現場見学会が毎年開催できることは民間の建設会社に所属する委員が大変多いからであり、本部会委員構成の大きな特徴として誇りにしたい。今後も本部会が大学、官公庁、民間会社の委員による情報交換や研究活動の場として大いにその成果をあげることを期待したい。

## 建築デザイン教育部会

部会長 **相羽 康郎**

デザイン教育を取り巻く課題を、JABEEに限定せず幅広く議論していく方針に従い、今年度新たな試みとして拡大会議を開催した。部会委員だけでなく、広くデザイン教育機関に呼びかけて参加者を募り、外部のゲストを招聘して議論を深める場とした。

2007年9月18日、16:00~19:00、支部会議室で「FD学際研究2007—大学とまち、デザインとコミュニケーション」と題し、趣旨説明：相羽、進行：大沼幹事のもと、前半は丹羽由佳理氏（柏の葉アーバンデザインセンター・ディレクター）から「地球環境時代におけるデザイン教育」について、博士論文の成果を発表していただいた。これは全国の大学および海外大学における設計課題を分析したもので、東北地方の数大学もヒアリング等調査の対象となっていた。工学部の従来型に加えて、より広い事業構想、環境デザイン教育の新たな流れを指摘した内容であった。また特にユニークな課題は、教員個人の努力によっている現状も指摘された。続いて若松信行氏（若松六本木設計）から、東北における氏の実践事例を、発想の元となる美術作品を示すなどして解説いただいた。氏が建築家としての矜持を保持して建築家になったことと、幅広いデザイン教育とのギャップなどについて議論された。大学デザイン教育が目標とするのは、幅広いデザインの素養に基づく価値のある発想と実践に向けてのコミュニケーション能力の育成にあるとしても、職能として、建築家およびデザインに関わる専門家への道程が就業先に任されるだけでなく、大学教育と連携する新たな動きなども議論された。

なお、一部機能していないシステムが見出されたので、部会委員の定員や任期などについての見直しを、常議員会に諮ることとした。

## 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2008年度は、6月14日に岩手・宮城内陸地震（M7.2）が発生、7月24日に岩手県沿岸北部地震が発生し、災害調査活動を行うとともに調査結果を纏めた。また、1978年宮城県沖地震から30年の節目の年に因んだ企画として市民公開講座を実施した。

6月14日の岩手・宮城内陸地震に対しては、地震発生直後の6月16日の午後に災害調査連絡会を開催した。20名が参加し、「日本建築学会災害調査活動指針」に基づく災害対応の確認を行うとともに、現地初動調査結果として、



宮城県沖地震30周年市民講座の  
会場の様子

3グループからの報告があった。この連絡会において、日本建築学会としては、「小規模国内地震災害」として位置づけ、地震調査WGを結成せ

ずに7つの調査項目と担当者を決定

した。成果はウェブに掲載するとともに災害調査報告を冊子に纏めた。

7月24日の岩手県沿岸北部の地震についても、地震発生直後に、連絡会を開催し、6月14日の地震対応と同様に「小規模国内地震災害」として位置づけ、地震調査WGを結成せず、4項目に関する調査と担当者を決定し、成果をウェブ公開するとともに冊子に纏めた。

11月6日には、支部60周年記念事業の一環として、「宮城県沖地震30周年市民講座—ここまで進んだ建物の総合耐震と都市の防災—」を夢メッセみやぎ開催した（写真参照）。地震災害軽減のために日本建築学会がこれまでに果たしてきた役割と残されている課題について、専門分野の異なる4人のパネリストによる基調報告とパネルディスカッションが行われた。地震災害科学に関する横断的な学際連携研究と災害調査体制のネットワークの拡大の必要性などが指摘された。

## 支所だより

### 青森支所

支所長 盛 勝昭

2008年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

6月7、8日『みちのくの風 2008 青森』が当地で開催され、多くの参加者にお集まりいただきました。支所としての表立った協力は出来ませんでした。参加させていただいた見学会では、前川國男の作品が数多く残っている弘前市探訪はもとより「尾上町の蔵」「黒石市の火の見櫓」見学等、盛り沢山の内容に地元の人間ながら楽しい体験を味わわせていただきました。

7月18日開催の『全員協議会』での講演では、青森からの建築情報発信となる建築総合雑誌『Ahaus』が誕生するまでを、発行人であり学会員でもある森内忠良氏によりスライドレクチャアしていただきました。『Ahaus』は2005年に創刊され現在第7号まで発行されておりますが、日本建築学会発行の『JABS・建築雑誌 2008年6月号』にも紹介記事が掲載されております。『Ahaus』は特集記事の充実した内容、すっきりとした紙面構成。建築家発行人の面目躍如といった大いに誇れる雑誌です。

また、前年の『全員協議会』で講演していただき大変好評でした八戸工業大学建築工学科の陳沛山教授に、あらためて2部構成の長時間にわたる講演を依頼いたしました。11月27日アピオ青森の大研修室には50名余の受講者が集まり、第1部『中国の耐震事情と大規模建築物の紹介』第2部『建築設計におけるS-Art 理念』と熱心に聴講しておりました。質疑応答では、陳氏太極拳の第20代伝人としての陳教授に太極拳の技を披露してもらい、講義とは別の緊張感が会場に漲りました。

『東北建築賞受賞作品展示会』は、6月7、8日の『みちのくの風 2008 青森』において弘前市文化会館で開催されましたほか、八戸工業大学にても10月18、19日の両日開催され好評を得ました。

### 秋田支所

支所長 安原 盛彦

支所事務局が秋田県立大学に移ってから二年目となり、コンパクトに活動が行われ、新しい可能性が探られ進められている。場所が秋田市内から由利本荘市に移ったことで秋田市内の建築学会員から多数、協力を申し出いただき、活発化した。

活動状況は、建築学会東北建築賞・作品賞のパネル展示を秋田県立大学・システム科学技術学部のオープンキャンパスに合わせ行った。これには第49回全国大学・高専卒業設計展示会も同時に開催され、盛況であった。

また三十六回続いている設計コンクールの「第37回秋田県工業系高校生生徒による建築設計作品コンクール」を秋田

駅に隣接するアルヴェで開催した。六校、十四点の応募があった。平成20年2月21日、県知事賞を始めとする表彰式の後、今回は審査員がそれぞれの作品講評を担当し、パネル展示されている作品の前で生徒を前に講評、質疑を行った。参加した生徒達及び指導教員が作品の評価を直に聞くことが出来たことで、生徒、指導教員から好評であった。作品展示においても工業高校の協力を得ることが出来、高校生・教員が作品展示に積極的に参加し生徒、教員、学会と三者が共同作業して開催したコンクールとなった。

またこの設計コンクールを通じて秋田県内の高校・大学の教員の交流が促進され、高校・大学連携が実際に進んでいる。高校生による大学の建築授業への参加、このコンクール出展生徒の秋田県立大学建築環境システム学科入学等々である。

### 岩手支所

支所長 鈴木 徹

2008年度の岩手支所の活動状況について報告します。



東北建築賞作品賞受賞作品展示会風景

9月5日（金）から7日（日）まで盛岡市アイスアリーナにおいて「第28回東北建築賞作品賞受賞作品展示会」を開催しました。同展示会は、例年、岩手県及び盛岡

市などが主催する住まいや環境について幅広く情報提供を行う「住まエネフェスタ2008」と併せて開催してきたもので、3日間の開催で14000人近い来場者があり、地域の方に建築学会の活動を広く知っていただくいい機会であったと共に、東北地方の地域特性を活かした建築作品に触れられる場として、特に、来場した建築を志す若い学生たちにとっては、興味深い内容ではなかったかと感じております。

こうした展示会の開催を通し、建築学会と地域の交流が益々図られるよう今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。

また、当支所の後援事業として盛岡市が主催する「第3



第32回盛岡市景観シンポジウム

2回盛岡市景観シンポジウム」が11月20日（木）、市内プラザおでつで開催されました。

今回の景観シンポジウム

は、盛岡市が平成21年10月に予定している景観条例の施行を前に「住み続けたいまち、盛岡の景観Ⅱ～景観計画とまちづくり～」をテーマとして、地域の特徴や生活環境を重視した建築物等のあり方を話し合うものでした。

県内各地で、こうした地域の建築資源を活かした街並み保存や再生など、市民によるまちづくりへの様々な取組がなされてきています。

支所では今後とも、建築関係のイベントに対する共催や後援を行うと共に、地域の建築活動と連携しながら、建築学会と地域との交流を図って参りたいと思います。

## 山形支所

支所長 相羽 康郎

### 山形モダン建築の再発見

#### 「山口文象の梅月堂をめぐる講演と展覧会」

本年度から山形支所の事務局機能を県庁から東北芸術工科大学に移し、支所長も大学から私が担当することになって新たなテーマを模索していたところ、山形市内に建つ「YT 梅月館」が山口文象（1902-1978）の設計事務所による竣工72年目を迎える商業建築であることを伝え聞き、



事業を企画することとなった。現在の旧梅月堂は改修され設計時そのまま姿ではないが、プロポーションも美しく、この時代の先端的なデザインを今に伝える文化財と言え、地方都市の中で生き続けるモダンデザインとしての建築の魅力や、山口作品を通して体験する

展覧会、講演会を実施した。

1階を除き空きスペースになっている2階で1月11日（日）に講演会、1月11日（日）～17日（日）に3階で展覧会を行った。講演会では山口文象の研究者で元所員の伊達美徳さんから詳細な年譜および当時の彼の仕事が紹介された。またクライアントだった山形出身の東京神楽坂紅屋（歌謡曲「紅屋の娘」の店）の主人など菓子業界を研究している谷口さんにも参加頂き、モダン建築と地方の西洋食文化とのつながりおよび人々の記憶について興味深い話が展開された。合計約20名の参加者のなかには遠来客も多かった。続く展覧会には設計事務所を引き継ぐ株式会社アール・アイ・エーの協力により、当時の図面コピーと、それにもとづく模型などを展覧した。昔を懐かしむ市民達が訪れ芳名帳には約80名の記載があった。

## 福島支所

支所長 佐々木 孝男

今年度の福島支所は、「建築を知る環境講座」及び「第28回東北建築賞作品展」の開催を中心に活動してまいりました。

「建築を知る環境講座」は、昨年11月に福島市の「コラッセふくしま」において日本建築学会賞を受賞された手塚貴晴氏、手塚由比氏の両氏をお招きして講演会を開催しました。今回は、(社)福島県建築士事務所協会、福島県耐震化・リフォーム等推進協議会と共催で行ない、約250名の参加者が聴講されました。

講座では、「～もっと住まいに夢を～」と題し、屋根にテーブルやキッチンを設けた「屋根の家」や学会賞を受賞した「ふじようちえん」に関する建築主とのやりとりなど、エピソード等を交えながら、設計の考え方や取組み方について、楽しく、分かりやすく説明していただきました。「20世紀は機械に人が合わせてきたが、これからは人の感覚に、機械が合わせていくこと」を「懐かしい未来」と表現され、人の感覚の大切さを話されました。

講演後には聴講者の具体的な相談やサインにも応じていただくなど、将来の建築家を目指す若い方には特に有意義なひとときであったと感じております。

また、「第28回東北建築賞受賞作品展」は、郡山市駅前「ビックアイ」において「日本大学工学部建築学科卒業設計展」、「日本建築家協会作品展」との同時開催で行いました。学生の夢のある作品から、第一線で活躍する地元建築家の作品まで多くの建築作品が並び、建築関係者をはじめ、一般市民の方々にとっても、見応えのある展示会になったのではないかと感じております。

今後とも地域の学校や関係団体との連携・協同を行いながら、さらなる事業の充実に心がけてまいりたいと思います。

## 常議員会から

常議員 佐藤 健

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部監事(2名)、及び支所長（青森支所、秋田支所、岩手支所、山形支所、福島支所）で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会（支部長と総務・企画担当常議員）で議事内容などを検討している。また、9月に支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施している。さらに、みちのくの風2008青森において、斎藤公明会長の東北支部訪問が実現し、常議員との懇談会を実施した。

常議員会は、原則として毎月行われるが、平成19年度から導入されたインターネットを利用したWeb会議が会議形態として定着してきている。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。また、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す。

【4月】 次期常議員選挙開票報告と役割分担、東北建築賞研究奨励賞選考推薦用紙、みちのくの風2008青森の進捗状況、2008年度予算案、2008年度総会と役割分担、JIA建築家大会2008東北への名義後援、第2回東北の建築を描く展2008への名義後援、60周年記念事業、東北支部論文採否、理事会報告、2007年度決算報告、2月・3月会計報告、支部年報の編集状況、本部研究補助費

【5月】 みちのくの風2008青森の進捗状況、2008年度支部企画、理事会報告、第29回東北建築賞応募、2008年度総会

【6月】 山形支所の移転、宮城県建築士会指名理事、年間行事予定及び役割分担、みちのくの風2009福島、60周年記念事業、2009年度全国大会に関する支援体制、災害調査研究基金申請、理事会報告、理事会への支部長代行者、4月・5月会計報告、作品選集2009応募結果の報告、支部経営助成費の交付、みちのくの風2008青森の反省、市民企画講座・支部企画への応募結果報告、東北支部年報

【8月】 みちのくの風2009福島、60周年記念事業、支部規定、緊急審議事項の取り扱い、2009年度大会研究集会のテーマ立案、特色ある支部活動の企画提出、支部監事交代、支部事務所移転計画、理事会報告、6月会計報告、日本建築学会設計競技支部審査結果、作品選集2009支部審査会の審査経過、支部事務局の体制と役割分担、会計基準変更にもなう2009年度事業計画・収支計画の変更

【9月】 みちのくの風2009福島、60周年記念事業、東北建築賞作品賞選考委員、2009年度日本建築学会文化賞候補の推薦、2009年度日本建築学会大賞業績候補の推薦、2009年度大会研究集会のテーマ立案、特色ある支部活動の企画

提出、支部事務所移転計画、第10期代議員および支部役員の選挙日程および選挙管理委員会の設置、日本鉄筋継手協会への名義後援、2009年日本建築学会教育賞候補者の支部推薦、7月・8月会計報告、作品選集2009支部推薦報告および本部審査結果報告、第29回東北建築賞応募報告および第19回東北建築作品発表会報告、学術推進委員交代報告、2009年度日本建築学会設計競技課題、震災対策技術展／自然災害展への名義後援

【10月】 みちのくの風2009福島、60周年記念事業、第10期代議員および支部役員の選挙、2009年度総会、2009年度設計競技審査委員、2009年度予算案、1月からの支部事務局の体制、事務所移転計画、理事会報告、9月会計報告、2008年度設計競技全国審査結果報告、JIA建築家大会2008東北の企画特集号広告掲載、支所事業報告、大会会場・期日変更、事務局会議報告、2009年度特色ある支部活動企画の採択結果報告

【11月】 60周年記念事業、みちのくの風2009福島、アーキニアリング・デザイン展支部巡回展開催、東北支部研究報告会募集要項、東北建築賞募集要項改定、2009年度収支予算（案）、寄付金、1月からの支部事務局の体制、法人賛助会員の動向、理事会報告、10月会計報告、代議員・常議員候補者届出状況、作品選集2009掲載作品報告、平成21年度科研費申請、作品選集2009への広告掲載、2009年度総会会場

【12月】 2009年度予算案、2009年度事業計画案、みちのくの風2009福島、アーキニアリング・デザイン展支部巡回展開催、2009年度日本建築学会国際交流振興基金の援助申請、2009年度総会、法人会員の動向、60周年略史、理事会報告、11月会計報告、第37回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクールへの名義後援、山形支所事業報告、代議員・常議員候補者届出状況、作品選集2010選考委員の選定、JASS5鉄筋コンクリート工事改定講習会

【3月】 大会進捗状況、みちのくの風2009福島、2009年度総会、東北建築賞、東北支部法人会員の動向、大学院インターンシップ、2009年度本部研究補助費申請、理事会報告、東北建築賞（作品賞・研究奨励賞）の審査結果報告、12月・1月会計報告、読売あをによし賞の推薦報告、第4回災害に強いコミュニティのための市民フォーラムへの名義共催、2009年度支部企画、災害委員会支部委員

# 支部役員名簿

## 東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2008年度 (2008年6月～2009年5月)	2009年度 (2009年6月～2010年5月)
支部長	吉野 博(東北大) ～2009年3月	井上範夫(東北大)
総務企画	佐藤 健(東北大) 陳 沛山(八戸工大) 松井壽則(日本大) 渡邊浩文(東北工大)	松井壽則(日本大) 渡邊浩文(東北工大) 五十子幸樹(東北大) 石川宏之(八戸工大)
社会文化	若松信行(アトリエノルド) 田村宏治(株みちのく設計) 西田哲也(秋田県立大)	田村宏治 (株みちのく設計) 西田哲也(秋田県立大) 三宅 諭(岩手大)
学術教育	市岡綾子(日本大) 鈴木博司(東北工大) 増田豊文(東北文化学園大)	増田豊文(東北文化学園大) 浅里和茂(日本大) 笹本 剛(東北工大)
会計会員	関口美恵子(仙台市) 我妻孝幸(JR東日本)	我妻孝幸(JR東日本) 渡邊裕生(仙台市)
図書情報	竹内昌義(東北芸工大) 本江正茂(東北大)	本江正茂(東北大) 志村直愛(東北芸工大)
企画運営		
事務局	瀧美雪 名久井恵美子 大場美香	大場美香 瀧 美雪

## 研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	植松 康(東北大学教授)
材料部会	三橋博三(東北大学教授)
建築計画部会	石井 敏(東北工業大学准教授)
地方計画部会	増田 聡(東北大学教授)
歴史意匠部会	狩野勝重(日本大学教授)
施工部会	笠松富二夫(宮城工業高等専門学校助教授)
環境工学部会	渡邊浩文(東北工業大学教授)
建築デザイン教育部会	相羽康郎(東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人(東北大学教授)

## 東北支部会員数(2009年4月1日現在)

名誉会員	3名	準会員	16名
終身会員	50名	賛助会員	11法人
正会員(個人)	1179名		
正会員(法人)	44法人		

## 東北支部監事

2008年6月～2009年5月

横山直樹(仙台市)  
保坂秀人(JR東日本)

2009年6月～2010年5月

関口美恵子(仙台市)  
保坂秀人(JR東日本)

## 東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2008年4月 ～ 2010年3月	狩野勝重(日本大学教授) 石坂公一(東北大学教授) 渡邊英明(東日本旅客鉄道(株)仙台支社総務部 企画室担当部長) 磯部 正(国土交通省東北地方整備局営繕部長)
2009年4月 ～ 2011年3月	濱田幸雄(日本大学教授) 斎藤文伸(仙台市役所交通局東西線建設本部長) 持田 灯(東北大学教授) 橋本典久(八戸工業大学教授)

## 支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭(株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	安原盛彦(秋田県立大学建築環境システム学科 教授)
岩手支所	鈴木 徹(岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎(東北芸術工科大学教授)
福島支所	佐々木孝男(福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

## 2008 年度事業報告

## 〈事務の部〉

総 会	1. 2007 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2008 年度事業計画・予算案	2008 年 5 月 10 日 情報産業プラザ・セミナー ホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (9)、総務委員会 (6)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集選考委員会 (2)	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 武 修司、高橋恒夫、出村克宣、源栄正人 (新任) 狩野勝重、石坂公一、渡邊英明、磯部 正	2007 年 4 月～2009 年 3 月 2008 年 4 月～2010 年 3 月
支部長改選	(新任) 吉野 博	2008 年 6 月～2009 年 3 月
常議員半数改選	(退任) 五十嵐太郎、氏家清一、大沼正昭、小澤成昭、西脇智哉、 長谷川兼一、土方吉雄 (留任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行 (新任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文	2006 年 6 月～2008 年 5 月  2007 年 6 月～2009 年 5 月  2008 年 6 月～2010 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	横山直樹、保坂秀人	2008 年 6 月～2009 年 5 月

## 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 植松 廉 構造技術における新しい試み 材 料 : 伊藤憲雄 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 西野敏信 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡邊浩文 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 笠松富二夫 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	東北におけるデザイン教育の実践と社会還元について —大学デザイン教育の公開講習会を通して— 建築デザイン教育部会 (研究代表者 相羽 康郎)	2008 年 4 月～2009 年 3 月
支部研究報告会	2008 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 71 号計画系・構造系刊行 発表題目 139 題	2008 年 6 月 7 日～8 日 弘前文化会館

<p>支部主催 支部共催 イベント</p>	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 環境工学部会、災害調査連絡会主催にて開催 (60周年記念シンポジウム参照)</p> <p>2) 第19回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第29回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2008 青森</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究報告会と招待講演会</li> <li>・斎藤公男会長基調講演 「空間と構造—私にとっての構造デザイン」</li> <li>・第28回東北建築賞授賞式</li> <li>・第28回東北建築賞受賞作品展示会並びにJIA青森作品展</li> <li>・見学会</li> </ul> <p>5) 東北支部60周年記念事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・60周年略史発行</li> <li>・連続セミナー 「サスナビリティ確保に関する行政の取り組み」(材料部会)</li> <li>「仙台北町プロジェクト新築工事見学会および環境にやさしい改修工法事例報告会」(施工部会)</li> </ul> <p>建築文化週間「市民向け環境講座」 「東北地方における非住宅建築物エネルギー消費量の10年間の変化」(環境工学部会)</p> <p>「歴史的建築物の地震被害とその修復保存対策」(歴史意匠部会)</p> <p>「東北のデザイン教育におけるローカリズム/グローバリズム」 (建築デザイン教育部会)</p> <p>宮城県沖地震30周年市民講座・建築文化週間事業 「ここまで進んだ建物の総合耐震と都市の防災」 (災害調査連絡会)</p> <p>「現場から考える」 -計画フィールドとしての東北と建築計画の次の展開- (建築計画部会)</p> <p>橋本典久先生・日本建築学会賞受賞記念講演 「集合住宅における床衝撃音性能と騒音トラブル」 (環境工学部会)</p> <p>「循環型社会に向けた建築生産のあり方」(材料部会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記念シンポジウム</li> </ul> <p>平成20年度日本建築学会大賞受賞記念講演会「神髄の把握」 シンポジウム「支部活動の過去・未来・現在」</p> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 「建築を知る環境講座」 福島支所</p> <p>2) 第28回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、弘前市、八戸市、由利本荘市、郡山市</p>	<p>2008年9月～11月</p> <p>2008年9月 2008年10月～2009年1月</p> <p>2008年6月7日～8日 弘前文化会館</p> <p>2008年12月</p> <p>2008年8月 2008年10月</p> <p>2008年10月</p> <p>2008年11月 2008年11月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年12月</p> <p>2008年12月</p> <p>2009年3月</p> <p>2008年12月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年6月～2009年2月</p>
<p>研究部会主催</p>	<p>(事業多数。各研究部会報告および60周年記念事業参照)</p>	
<p>表彰</p>	<p>1. 第28回東北建築賞作品賞 作品賞4点、作品奨励賞1点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人6名</p>	<p>2008年6月7日 弘前文化会館</p> <p>2008年5月10日 情報産業プラザ・セミナーホール</p>

支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第28回東北建築賞作品展示会：弘前市</li> <li>・講演会</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会</li> <li>・第28回東北建築賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第37回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・展覧会およびシンポジウム：山形市</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回東北建築賞作品展示会：郡山市</li> <li>・建築を知る環境講座：福島市</li> </ul>	<p>2008年7月 2008年6月 2008年11月</p> <p>2008年7月 2009年2月</p> <p>2008年9月</p> <p>2008年11月 2009年1月</p> <p>2009年2月 2008年11月</p>
刊行活動	<p>支部年報第28号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第71号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第19号）発行</p> <p>東北支部60周年略史発刊</p>	<p>2008年5月10日 2008年6月7日 2008年9月27日 2008年12月</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会開催	2009年3月
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	2008年6月～2008年10月
審査会	<p>2008年度支部共通 日本建築学会設計競技</p> <p>テーマ：記憶の器</p> <p>日本建築学会「作品選集2009」</p>	<p>2008年7月</p> <p>2008年6月～9月</p>

## 2009 年度事業計画（案）

## 〈事務の部〉

総 会	1. 2008 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2009 年度事業計画・予算案	2009 年 5 月 16 日 情報産業プラザ・セミナー ホール
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、総務委員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 狩野勝重、石坂公一、渡邊英明、磯部 正 (新任) 濱田幸雄、斎藤文伸、持田 灯、橋本典久	2008 年 4 月～2010 年 3 月 2009 年 4 月～2011 年 3 月
支部長改選	(新任) 井上範夫	2009 年 6 月～2010 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 市岡綾子、鈴木博司、関口美恵子、竹内昌義、佐藤 健、 陳 沛山、若松信行 (留任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文 (新任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛	2007 年 6 月～2009 年 5 月  2008 年 6 月～2010 年 5 月  2009 年 6 月～2011 年 5 月
企画運営委員		
支 部 監 事	保坂 秀人、関口 美恵子	2009 年 6 月～2010 年 5 月

## 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名]  構 造 : 植松 康 構造技術における新しい試み 材 料 : 三橋博三 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 狩野勝重 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡邊浩文 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 笠松富二夫 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	建築物のリニューアルの実態と改修技術の調査研究 施行部会 (研究代表者 笠松富二夫)	2009 年 4 月～2010 年 3 月
支部研究報告会	2009 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 72 号計画系・構造系刊行 発表題目 121 題	2009 年 6 月 20 日～21 日 コラッセふくしま
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 山形支所で開催予定 2) 第 20 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 30 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2009 福島	2009 年 11 月 2009 年 10 月 2009 年 10 月～2010 年 1 月 2009 年 6 月 20 日～21 日

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究報告会・招待講演会・シンポジウム</li> <li>・第29回東北建築賞授賞式</li> <li>・第29回東北建築賞受賞作品展示会並びにJIA福島作品展</li> </ul> <p>5) 総会付随催事 シンポジウム「支部活動の過去・現在・未来」 *タイトル要確認</p> <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島会場「建築を知る環境講座」</li> <li>・山形会場「親と子の都市と建築講座」</li> </ul> <p>2) 第29回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市</p>	<p>コラッセふくしま</p> <p>2009年5月16日 情報産業プラザ・セミナーホール</p> <p>2009年10月 2009年11月</p> <p>2009年6月～2010年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第29回東北建築賞作品賞 作品賞6点、特別賞1点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人5名、法人22社</p>	<p>2009年6月20日 コラッセふくしま</p> <p>2009年5月16日 情報産業プラザ・セミナーホール</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第29回東北建築賞作品展示会：八戸市</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回東北建築賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第38回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回東北建築賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回東北建築賞作品展示会：山形市</li> <li>・「親と子の都市と建築講座」</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回東北建築賞作品展示会：福島市</li> <li>・建築を知る環境講座</li> </ul>	<p>2009年7月 2009年10月</p> <p>2009年7月 2010年2月</p> <p>2009年9月</p> <p>2009年11月 2009年11月</p> <p>2009年6月 2009年10月</p>
刊行活動	<p>支部年報第29号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第72号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第20号)発行</p>	<p>2009年5月16日</p> <p>2009年6月20日</p> <p>2009年10月</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	支部共通講習会開催	2010年
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2009年7月～2009年10月
審査会	2009年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：アーバン・フィジックスの構想 日本建築学会「作品選集2010」	2009年7月 2009年6月～9月

### 〈2009年度日本建築学科大会事業〉

大会実行委員会事業	<p>(1)記念行事</p> <p>(2)研究協議会・研究懇談会・パネルディスカッション</p> <p>(3)開会式、閉会式、大会懇親会</p> <p>(4)各種表彰</p> <p>(5)各種展示会</p>	2009年8月26日～29日
支部企画事業	<p>(1)学生による語り合いのシンポジオン09</p> <p>(2)日本建築学会住まいづくり市民セミナー@仙台</p> <p>(3)第29回東北建築賞作品賞受賞作品展示会</p>	<p>2009年8月28日</p> <p>2009年8月30日</p> <p>2009年8月26日～29日</p>

## 法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)山下設計
(株)大林組	(株)梓設計
(株)関・空間設計	(株)伊藤喜三郎建築研究所
(株)奥村組	東日本興業(株)
鹿島建設(株)	東北ポール(株)
(株)久米設計	(株)昂設計
(株)熊谷組	(株)みちのく設計
清水建設(株)	千田総兵衛建築事務所
仙建工業(株)	(株)東北設計計画研究所
大成建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+
(株)竹中工務店	地域環境計画研究室
鉄建建設(株)	(株)清水公夫研究所
戸田建設(株)	東日本旅客鉄道(株)
(株)ユアテック	東北電力(株)
西松建設(株)	(株)NTT ファシリティーズ
(株)間組	有限責任中間法人
(株)フジタ	東北空気調和衛生工事業協会
堀江工業(株)	東北文化学園専門学校
前田建設工業(株)	日刊建設産業新聞社
(株)ピーエス三菱東北支店	(株)佐藤総合計画
(株)三菱地所設計	東北文化学園大学

## 2009 年度東北大会のお知らせ

2009 年度の日本建築学会全国大会は、8 月 26 日から 29 日の 4 日間、東北学院大学泉キャンパスを会場に、「都市のリアリティ」をメインテーマとして開催される予定である。吉野博大会委員長、井上範夫大会実行委員長を中心とした 8 つの部会がそれぞれ準備にあっている。

例年通りの学術講演・研究集会・各種表彰に加え、下記のように大会期間前後を含め、大会行事、記念行事、関連行事が多彩に企画されている。会員諸兄のご参加を願うものである。

### 1. 大会行事

- (1) 学術講演
- (2) 研究集会（研究協議会・研究懇談会・PD）
- (3) 学会賞（論文）受賞者記念講演
- (4) 学会賞（作品賞・技術賞・業績賞）展示
- (5) 作品選奨受賞作品展
- (6) 支部共通事業全国大学・高専卒業設計展示会
- (7) 支部共通事業設計競技公開審査・表彰式
- (8) 技術部門設計競技公開審査・表彰式
- (9) 奨励賞贈呈式、優秀卒論・優秀修論表彰式
- (10) 教育賞受賞者記念講演会

### 2. 記念行事

- (1) 記念シンポジウム「(仮) 都市は<デタラメ>か!？」  
8/28、東北大学萩ホール
- (2) アーキニアリング・デザイン展・斎藤公男講演会、  
8/23-31（講演会は 8/25）、せんだいメディアテーク
- (3) ケンチク映画上映会、8/26・28、  
せんだいメディアテーク
- (4) 5 番チューブ再生計画・番外編、  
せんだいメディアテーク
- (5) 見学会バスツアー
- (6) 学生主体によるシャレットワークショップ

### 3. 関連行事

- (1) 学生による語り合いシンポジオン 09
- (2) 住まいづくり支援会議による市民セミナー、8/30  
フォレスト仙台
- (3) 東北建築賞（作品賞）パネル展示
- (4) 免震構造に関する展示会（免震フェア 2009）

### 4. 大会懇親会（8/26 ホテル仙台プラザにて）

なお詳細は建築雑誌をご覧ください。